

第2回技術者倫理セミナー報告【香川】

H30.6.19

平成30年6月19日(火)に高松市「ホテルパールガーデン」において、第55回CPDセミナー・公開講座と合同開催で、第2回技術者倫理セミナーを行った。参加人数は、80名(会員75名、非会員1名、新合格者4名)であった。

講義：「技術士と技術者倫理」

今回は委員会内部講師によるセミナーとし、香川県所在の竹内克宜が担当した。技術者倫理の概論を下記の項目に沿って、主に「組織」「集団」と技術者個人との係わりから講義した。

1. 最近の企業不祥事
2. 倫理・モラル・法
3. 技術者倫理とは何か
4. 技術者はなぜ特別な責任を負うのか

最初に企業に属しその組織の中で仕事をしている技術者の倫理を考える取りかかりとして、最近の企業不祥事の事例を紹介し、不祥事が発生した原因には、「組織」「集団」が個人に与える負の影響、マイナスの面が強く出ていることを示した。

次に、倫理・モラル・法の成り立ちについて紹介し、倫理はコミュニティの規範であり、コミュニティの中で育つものであること、そして、企業という組織の中で倫理を考えると、企業コミュニティの風土が人々を規定する力は非常に大きいものであること、それゆえ、企業の技術者を含む人々が意図して倫理が育つ風土を育てる必要があることを示した。

その上で、技術者倫理の特徴から技術者が特別な責任を負う状況となっていることを紹介し、技術者には会社や企業などから独立に独自に倫理的判断を下すことのできる能力、倫理的自律が求められていることを示した。

最後に、各々が倫理について考える材料として、「技術士倫理綱領」と月刊「技術士」の技術者倫理シリーズを紹介した。



講義の状況

〈アンケート結果〉

アンケートは49名の提出があった。

第1回(愛媛)では40～50代が66%、60代以上が28%であったが、今回(香川)では40～50代が35%、60代以上が54%であり参加者の年齢に変化があった。これまでの倫理との係わりについては、セミナー参加回数はないが65%、綱領について読んだことがあるが71%で、第1回と変化がなかった。

セミナーの評価は、良かったと非常に良かったが合わせて66%であったが、あまり良くなかったとの評価も4%あった。なお、良くなかった理由は、・PPが文字ばかりで読むのが中心の講義で変化がなく集中力が欠けてくる。・事例を詳しくの方が良い。ということであった。

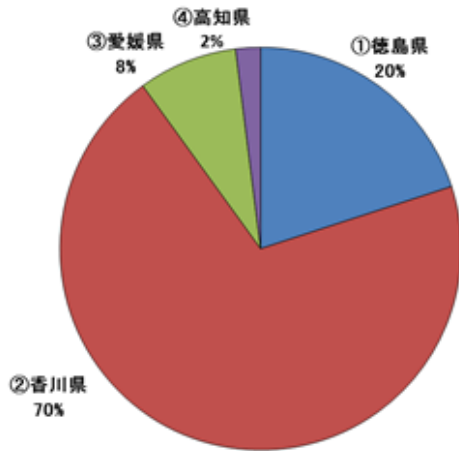
今後のセミナーの希望は、「ケースメソッドと講義とディスカッションの併用」と「講義とディスカッションの併用」が合わせて66%であった。

今回は概論の講義であったが、事例研究とグループ討議ということが求められている。その際、参加人数、年齢構成、講師の確保が課題であると考える。

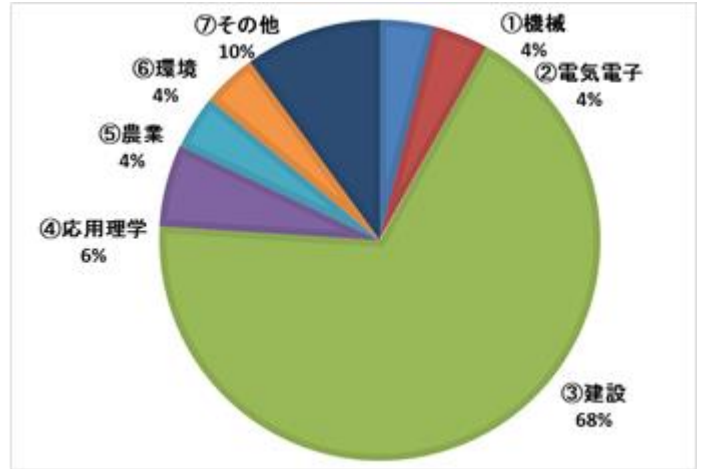
—以上—

第2回 技術者倫理セミナーアンケート集計（香川） H30.6.19

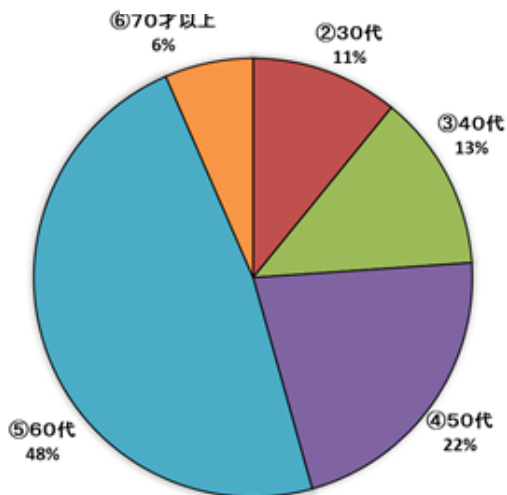
Q1：主たる活動県



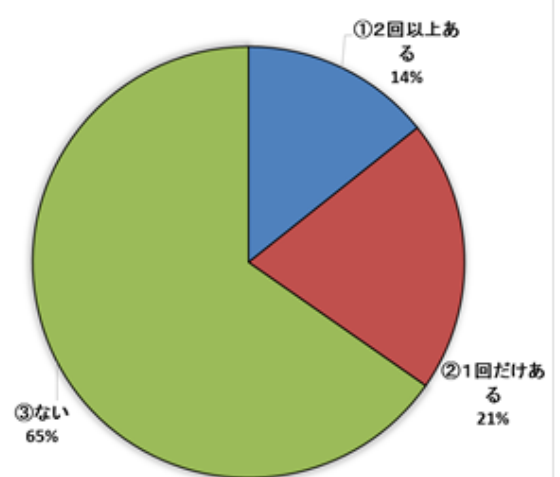
Q2：技術部門



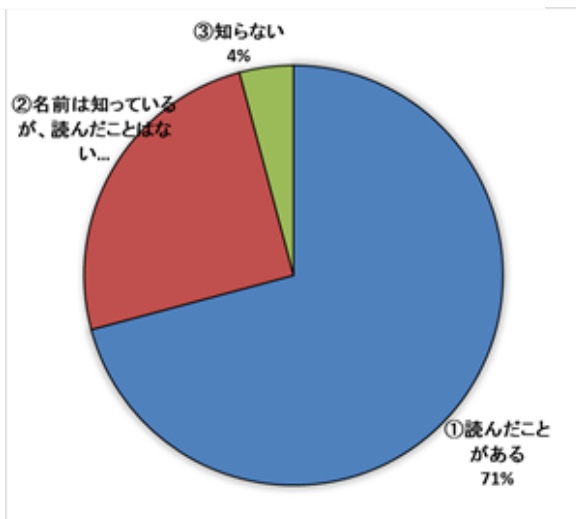
Q3：年齢



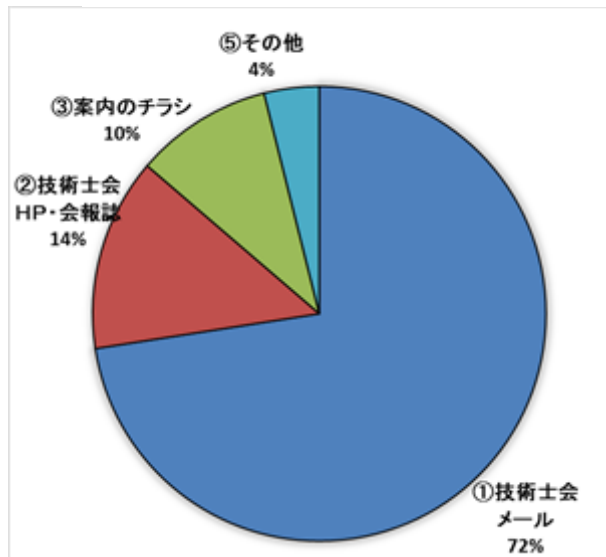
Q4：技術者倫理セミナーの参加回数



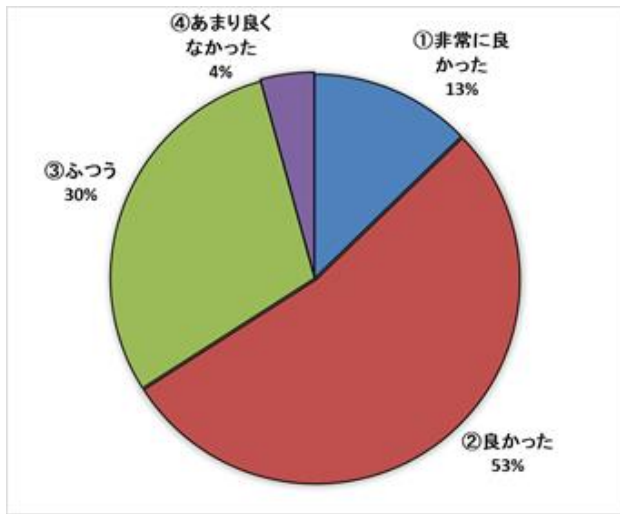
Q5：技術士倫理綱領をご存じですか



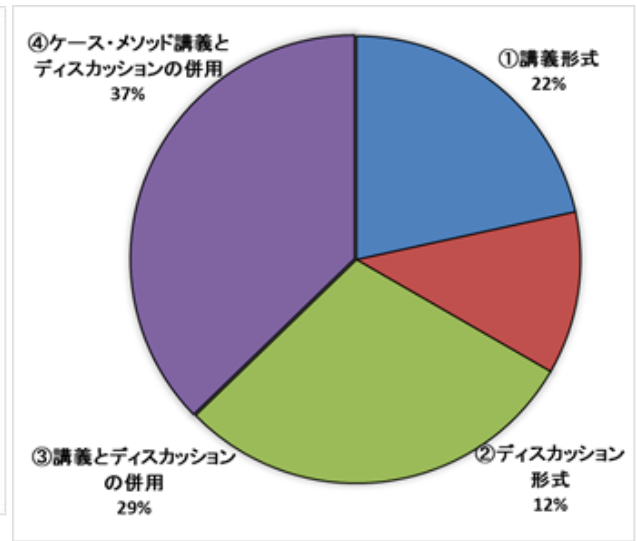
Q6：技術者倫理セミナーを知った方法



Q 7 : 本日のセミナーの参加感想



Q 8 : 今後のセミナーの方式の希望



質問 7. 感想の理由

- ・もっと写真や図を用いた説明が分かりやすかったと感じた。事例を用いて問いをつくり、こと絵をA、Bで判定する小テストを参加者に行い、10問で何問正解したかをテストすると面白い。
- ・レアケースの通り、大会社のスキャンダルが多く、日本の能力の原則に鳴門の心配があり、この問題は、倫理-国際競争力-日本のイメージダウン-社会経済社会-暗雲-没落の危機
- ・理解と必要度のアンバランス
- ・よく分かった。
- ・PPが文字ばかりで、そのものを読むのが中心も講義であったので変化がなく集中力が欠けてくる
- ・今まで具体的に技術者倫理に関して学ぶ機会がなかったので良い機会となった
- ・技術者倫理でよく活用されている内容であったこと。だからどうすべきか、発生事例を反面教師とする
- ・このようか機会でないと思わないと思う
- ・全体的にまとめられており解りやすかった。
- ・事例を詳しくの方が良いのでは
- ・聴講させていただきあらためて技術者倫理について考えさせられました。
- ・近年の多くの大企業による技術面での不祥事について企業の多くは技術士を有すると思うが、経営面への参画が重要である。経済的な考慮も技術士のつとめである。
- ・私の勉強不足ですが短かな時間で難しい言葉や内容が多く理解ができて行けませんでした。
- ・倫理が分かった。
- ・最近の技術データの問題が急に出てきた背景としてどういう要因があるのか、人間的側面なのか、扱う情報の処理事項が増えすぎて判断しにくい傾向にあるのか疑問に少し解答が得られた。
- ・世間の企業不祥事の原因例として挙げていただいた項目は、自分の所属組織においても十分に起こりえる事案だと思推した。
- ・あらためて再認識した。
- ・近年、技術者(企業)倫理が問われる事案が多い中での講演会であり、また、倫理小委員会が立ち上がったばかりの講演会であり、興味深い内容であった。
- ・幅広い内容がまとめられていた。
- ・技術者倫理について分かりやすい内容であった。
- ・技術者倫理について再認識できた。
- ・内容が多く、個々の印象が残らなかった。
- ・パワポが文字が多くて読みにくかった。写真、図があるとなお良い。

質問 8. 倫理セミナー内容についての希望・要望

- ・会場に問いかける方式を考えて欲しい。
- ・事例などを交えたセミナーの方がより実感的に理解できるのではないかな。
- ・会社組織的な倫理が問題、どの企業にもあてはまるのか、倫理的組織に改変すべき
- ・内容についての希望はありませんが、倫理について各自が考え、意識する時間を設けることに効果があると思うので、その時々話題提供が良い。
- ・技術者倫理の継続にはディスカッションが重要
- ・事例研究が良いと思います
- ・人数が少なければ、ディスカッションとの併用を
- ・企業における倫理観の醸成の方法、手段の具体策
- ・安全性とコストのトレードオフ。公益と社会と個人の考えの例。工夫の例。
- ・企業不祥事の映像素材などの上映とそれに対するディスカッションなど
- ・講義形式がある程度感觸を得てから、ケースメソッドによる講義とディスカッションを併用すればと思います。
- ・是非、具体内容を示しながら、いろんな人の考えを聞きたい。(正解がないから)
- ・テーマを絞って、ディスカッションすることで、倫理に関する意識が変わるのでは

質問 9. 技術者倫理セミナーに関する要望・提案

- ・技術者倫理(能力)がどの程度あるか、セミナーの中でテストすることを望む。迷う質問を作って欲しい。
- ・技術者の根幹に係ることなので、継続的に活動されることを期待します。
- ・技術士の倫理の中には「品位」があります。あまりにも技術士資格を過大評価(自ら)し、他者にその評価を認めさせようとするようなものもみられます。
- ・人としての品位に関して「教育」「講義」すべきです
- ・倫理に反した者が実際どういった心理で行為を行ったのかが知りたい。